

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-7- (2面)
- ・開拓地訪問 (千葉県四街道市鹿放ヶ丘) (3面)
- ・春の農作業安全確認運動がスタート (4面)
- ・寒玉系キャベツを4~5月どりする方法 (5面)
- ・牛白血病の発生拡大懸念 (6面)
- ・黒毛和去勢肥育牛の飼料費を1割削減 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

# 開拓情報

発行所  
**(社)全国開拓振興協会**  
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13  
 TEL 03-3586-5843  
 FAX 03-3586-5846  
 ホームページ <http://www.kaitakusya.or.jp>  
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

## 4000人が公約違反を糾弾



日比谷公園に4000人集結

### 国益守れないTPP交渉参加断固反対

全国農協中央会など生産者団体や生協など消費者団体で組織する実行委員会は3月12日、東京・日比谷野外音楽堂で、政府のTPP参加表明を阻止する緊急全国集会を開催した。集会には農林漁業者、消費者4000人が参加し、食と暮らしのいのちを守りたいとの願いを結集させた。萬歳章全中会長の主催者挨拶に続き、各界代表による決意表明、政党代表挨拶が行われ、集会決議を採択して閉会。集会後参加者らは、霞ヶ関の官庁街を経て首相官邸から国会までデモ行進した。

「国益を守れないTPP交渉参加断固反対緊急全国集会」は、近く行われそうなる安倍総理のTPP交渉参加表明に、断固反対を表明するため開催された。



萬歳会長



仲井真知事



鈴木教授

主催は全中、全国農業会議所、全漁連、全森連、生活クラブ事業連合生協連、大地を守る会、パルシステム生協連、中央酪農会議の8団体で構成する同集会実行委員会。2月の日米首脳会談で、安倍総理はTPP(環太平洋連携協定)に「聖域なき関税撤廃」が前提ではないという認識に立った」という認識に立った」と。今後、政府の責任において判断する」と表明。それに対して集会主催者は、農林水産分野はもろろん、ISD(国家対投資家の紛争処理条項)、食の安全・安心、医療、保険など、国民の暮らしにのちにわたるさまざまな分野に、TPPは影響を及ぼす。国のかたちを変容させる重大な問題であるにもかかわらず、徹底した情報開示に基づいた国民的議論が喚起されず、また、「国益」が守れるかどうか国民が納得できないなかで、政府が拙速に交渉参加に突き進むことには断固反対している。主催者を代表して萬歳全中会長は、「全国の農

林水産業、命を預かる現場、暮らしを支える現場では、政府のあまりにも早急な姿勢に、動揺と困惑、怒りと憤りが広がっている。メット・デメリットもまったく明確ではなく、政府の統一試算も出されず、国益を十分検証しない中、何があるうかがわず交渉参加を判断することは、断固として反対する」と述べた。続いて、急遽駆けつけた沖縄県の仲井真弘多知事が、「沖縄でも大変危

### 14年度に向け意見交換

#### 畜酪政策で農水省と連盟



全日本開拓者連盟は2月20日、12年度畜産酪農の振興に関する意見交換会を開催した。例年であれば、畜産物政策価格および関連対策をめぐる意見の交換と見られた。出席したのは、開拓予算案の中の主な所管事業について説明がなされ、説明ごとに意見交換を行った。農水省各課から12年度補正予算案、13年度当初予算案の中の主な所管事業について説明がなされ、説明ごとに意見交換を行った。



官庁街をデモ行進

機感が募っている。当県は国境の離島で成り立っている県だが、農林水産業が社会の基盤であり、文化であり、誇り、沖縄の歴史だ。これをつぶすわけにはいかない。徹底して反対する」と述べた。その後、各界代表による決意表明が行われ、東に展開することを求めている。さらに、地元の都道府県議会議員、市区町村議会議員らへの要請運動展開も、実施するよう求めた。連盟はまた、畜産関係97団体で構成する日本畜産ネットワークなどの関係団体とも協働して、TPP交渉参加反対運動を展開するとしている。

### 全日本開拓者連盟も反対運動を展開

全日本開拓者連盟も、TPP交渉参加反対の運動を展開している。3月中にも参加表明がなされるとの報道や、安倍総理の日米首脳会談後、自民党の役員会で「農業・農村について最も実情を知っている党の意見を十分に聞いて、参加するか否か、その判断時期を私に任せてほしい」との発言を受けて、参加表明の時期が近いと判断。会議員に対して、地元選出国会議員に対し、TPP交渉参加表明を絶対に行わないよう要請活動を強力に展開するとしている。

連盟はまた、畜産関係97団体で構成する日本畜産ネットワークなどの関係団体とも協働して、TPP交渉参加反対運動を展開するとしている。続いて、主婦連合会事務局長佐野真理子氏、全国漁業連理事菅原幸洋氏、パルシステム千葉理事長平野都代子氏、シャナリストの上垣喜寛氏、全国学校給食を考





# 背信の政治に立ち向う

東京大学教授 鈴木宣弘氏

選挙が終わったとたん、安倍総理がTPP参加表明をするのを誰も止めないという事態は、有権者に対する背信行為以外の何物でもない。TPPの内容については変更を

「早く入れば交渉が有利になる」「交渉力で例外も作れるし、いやなら脱退すればいい」というのもきわめて難しい。最近、米国がメキシコやカナダの参加を認めたときも、屈辱的な「念書」が交わされ、「すでに合意されたTPPの内容については変更を

「カナダとメキシコと同じ屈辱的な参加条件を日本にも認めさせた。つまり、日本が交渉に実質的に口を挟める余地はほとんどない」と、米国のこのような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

北海道から沖縄まで、全国の国民の怒りを結集し、このような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

北海道から沖縄まで、全国の国民の怒りを結集し、このような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

全国各地の現場で地域を支えている人々に、どんな顔をして説明されるのでしょうか。

「TPPのアウトライン」は「関税及び投資に対するその他の障壁を撤廃する」と記している。だから、米政府は、共同声明を受けて、「日本が農産物関税をすべて撤廃する」と同意したから喜んでくれ

「早く入れば交渉が有利になる」「交渉力で例外も作れるし、いやなら脱退すればいい」というのもきわめて難しい。最近、米国がメキシコやカナダの参加を認めたときも、屈辱的な「念書」が交わされ、「すでに合意されたTPPの内容については変更を

「カナダとメキシコと同じ屈辱的な参加条件を日本にも認めさせた。つまり、日本が交渉に実質的に口を挟める余地はほとんどない」と、米国のこのような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

北海道から沖縄まで、全国の国民の怒りを結集し、このような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

## TPP公約違反を許すな

TPP(環太平洋連携協定)に反対する全国各地の大きな声を受けて、たかさんの議員が誕生したのが昨年末の総選挙であった。TPP反対を掲げて当選された議員の皆さんにお聞きしたい。「あの約束はどうなったのでしょうか。先生方は、全国各地の現場で地域を支えている人々に、どんな顔をして説明されるのでしょうか。」

「早く入れば交渉が有利になる」「交渉力で例外も作れるし、いやなら脱退すればいい」というのもきわめて難しい。最近、米国がメキシコやカナダの参加を認めたときも、屈辱的な「念書」が交わされ、「すでに合意されたTPPの内容については変更を

「カナダとメキシコと同じ屈辱的な参加条件を日本にも認めさせた。つまり、日本が交渉に実質的に口を挟める余地はほとんどない」と、米国のこのような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

北海道から沖縄まで、全国の国民の怒りを結集し、このような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

北海道から沖縄まで、全国の国民の怒りを結集し、このような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

## 食料農業 知ってほしい話

第7回

PPに賛成か反対かを超えて、こんな公約違反を許してよいのだろうか。国民を馬鹿にするのもいい加減にしていただきたい。

「早く入れば交渉が有利になる」「交渉力で例外も作れるし、いやなら脱退すればいい」というのもきわめて難しい。最近、米国がメキシコやカナダの参加を認めたときも、屈辱的な「念書」が交わされ、「すでに合意されたTPPの内容については変更を

「カナダとメキシコと同じ屈辱的な参加条件を日本にも認めさせた。つまり、日本が交渉に実質的に口を挟める余地はほとんどない」と、米国のこのような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

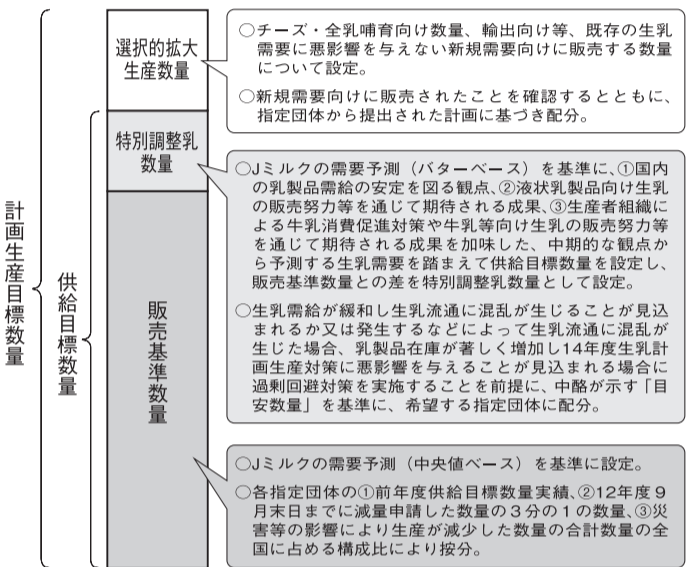
北海道から沖縄まで、全国の国民の怒りを結集し、このような政治を絶対に許さない姿勢を徹底して貫かなければならない。

2013年度供給目標数量の試算(2月8日時点) (単位:ト)

	供給目標数量(試算)		うち販売基準数量(試算) B	うち特別調整乳数量(試算) C
	A=B+C	前年度実績見込比%		
北海道	3,416,631	101.6	3,352,493	64,138
東北	592,966	102.7	588,343	4,623
関東	1,156,291	100.7	1,148,193	8,098
北陸	100,216	101.1	99,663	553
東海	399,764	100.3	397,417	2,347
近畿	183,344	100.5	182,405	939
中国	295,158	100.4	293,165	1,993
四国	133,740	100.9	132,939	801
九州	659,340	100.5	654,235	5,105
都府県	3,520,819	100.9	3,496,360	24,459
全国	6,937,450	101.3	6,848,853	88,597

※上記以外に新規就農枠として2.5千トを設定。これを合算した供給目標数量は6,940千トン。  
※2013年2月8日段階での試算であり、今後の受託実績の変動等により数値が変わる可能性がある。

13年度計画生産対策における各生産枠の概要図



## 5月21日までに配分

### 13年度生乳計画生産目標数量

中略は2月8日理事会「選択的拡大生産数量」を開催し、13年度生乳計画生産対策の概要を決定(図参照)。  
販売目標数量は、生乳需給予測(チーズ向け除く)における脱脂粉乳とバターに占める構成比により配分する。  
特別調整乳数量は、生乳需給予測におけるバターベース需要量(チーズを除く)を基本に、中期的な観点から予測する数量にインサイダー率を乗じた数量から新規就農枠(2500ト)を差し引き、全国で684万853トを設定。

各指定団体への配分方法は、12年度実績数量を基本に、加算要素を加味した数量を基礎数量とし、全国に占める構成比により配分する。  
選択的拡大生産数量は、チーズ・全乳哺育向けや置き換えなど、通常の国内生乳市場と区分された、新たな生乳需要を計画的に創出し実績の確認ができる数量を、同数量として配分する。  
供給目標数量の試算値は表のとおり。2月8日現在の試算であり、12年度計画生産実績を確定させた後、13年5月21日までに配分する。

また、今年2月18日から22日にかけて、家畜衛生上の問題がないか確認するため、現地調査チームを中国に派遣し現地調査を行った。

## 輸入を再開

### 中国産稲わらなど

中国遼寧省大連市での口蹄疫発生を受けて、昨年11月26日以降輸入がストップしていた同国産稲わらと飼料用乾草だが、このほど一部輸入が再開された。農水省が今月12日から、輸入検査証明書の発行手続きを一部再開したことになる。

具体的には、①12年11月25日以前に加熱処理が行われたもので、わが国の港で保留されているものなどについては、動物検疫所でホルマリンくん蒸消毒を実施したものに限り、輸入検査証明書を発行(3月12日より実施)②今後新たに加熱処理を行うものについては、連市は今回の発生まで口蹄疫発生がなかった地域であることから、前記①の設置、検査証明書への②の対応により輸入を認めることが適切との意見を

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。



# 開拓地訪問

## 千葉県四街道市鹿放ヶ丘開拓



組合員10を募って20名ほどを集め、103名(内基幹3名)で再スタート。その103名はひとりの脱落者もなかった。

きつかけで建てられ、都市近郊の開拓地は、著しく市街化が進んでいる。それでも開拓地には、現在も1世もしくは後継者がそれぞれの入植地に居を構えており、小麦や落花生、露地・施設野菜などの畑作、酪農、養豚、養鶏などの畜産が営まれている。1戸当たりの配分面積は1・5畧だ。たという。

千葉東四街道市鹿放ヶ丘の通称大日山は、下志津原開拓団総隊員に命じた。生徒は16、2000畧の中心部に、260畧の「鹿放ヶ丘開拓」が開かれた。敗戦直後、茨城県内原町の満蒙開拓青少年義勇軍訓練所に、下志津原集団開拓団幹部らが訪れ、加藤完治所長に開拓事業一切の指導を依頼した。

加藤所長は、同地の一角に模範農場を作ることを提案。あえて、や開拓記念

## 義勇軍訓練生が入植

### 資料室で戦後開拓を伝承

加藤所長は、同地の一角に模範農場を作ることを提案。あえて、や開拓記念

加藤所長は、同地の一角に模範農場を作ることを提案。あえて、や開拓記念



写真上=鹿放ヶ丘開拓地、自身の開拓地で作業する片山ゆり子さん(80)、背後の丘は大日山、同下=資料室で説明する加藤昌司さん、同左=鹿放ヶ丘開拓資料室のあるふれあいセンター

加藤所長は、同地の一角に模範農場を作ることを提案。あえて、や開拓記念

加藤所長は、同地の一角に模範農場を作ることを提案。あえて、や開拓記念

## 赤身肉の生産を考える

### 3月29日、産肉研が学術集会

環境負荷の少ない、地域特産物や畜産資源を有効に活用する

環境負荷の少ない、地域特産物や畜産資源を有効に活用する

環境負荷の少ない、地域特産物や畜産資源を有効に活用する

## 北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

## 櫻井徳一さんが優良賞を受賞

櫻井徳一さんが優良賞を受賞

櫻井徳一さんが優良賞を受賞

## 開拓組織の動き

開拓組織の動き

開拓組織の動き

北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

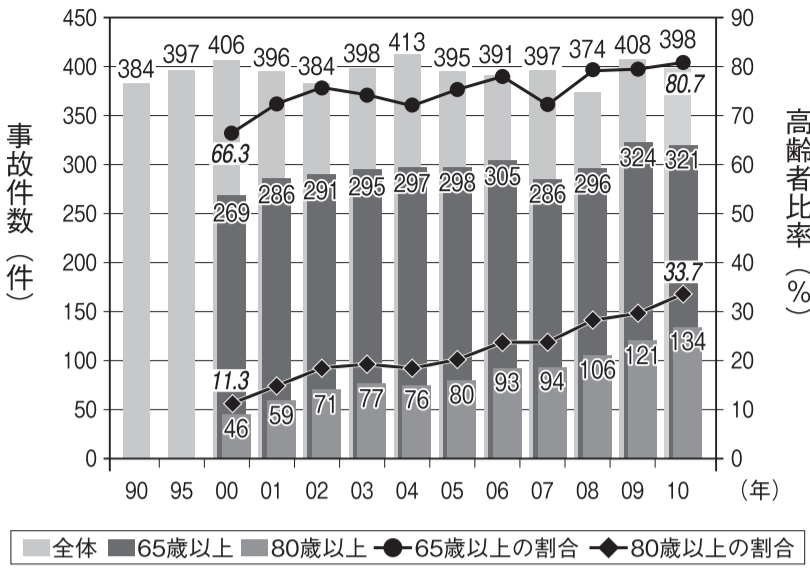
北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに

北村誠さんが地域特産物マイスターに



図1 農作業死亡事故の発生



農作業による死亡事故が全国で毎年400件発生している。この数字、実は1971(昭和47)年以降変わっていない(図1参照)。65歳以上が81%、80歳以上が34%という高齢者割合が大きいという高齢者の年齢構成(高齢化)を反映したものの、交通事故の死者数が20年間で半減していることや、建設作業の死亡事故も年々発生率が減少しているのに比べ、



13年運動ステッカー

### 13年農作業安全確認運動がスタート

## 一人ひとりが主役 広げよう!安全確認

・4割、動力防除機8件、岩手、愛媛など。

が全国で毎年400件発生している。この数字、実は1971(昭和47)年以降変わっていない(図1参照)。65歳以上が81%、80歳以上が34%という高齢者割合が大きいという高齢者の年齢構成(高齢化)を反映したものの、交通事故の死者数が20年間で半減していることや、建設作業の死亡事故も年々発生率が減少しているのに比べ、

### 「十安全」の取り組み推進

13年の農作業安全確認運動は、テーマに「一人ひとりが主役 広げよう!安全確認」を掲げて、

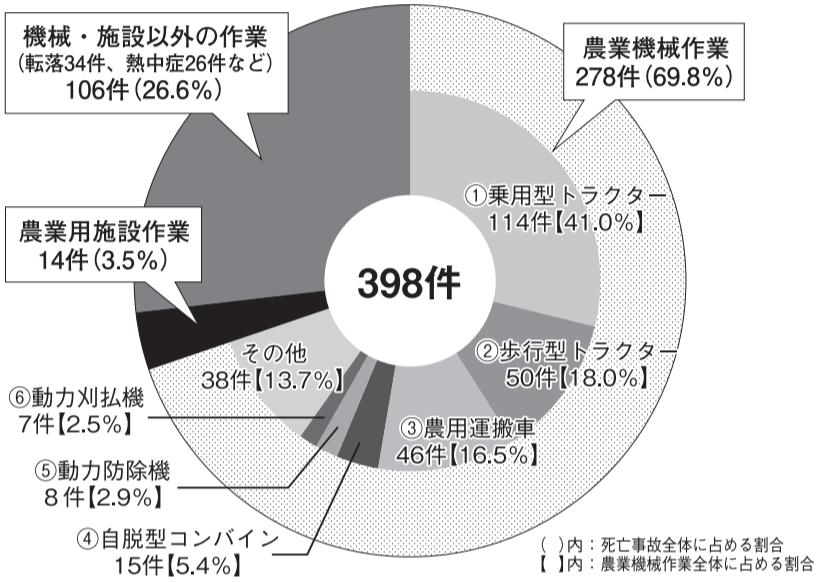
推進する。関係者一人ひとりが安全な農作業について改めて自覚し、取り組みの底上げを図る。

## 40年間死者数変わらず 農機作業時が7割占める

### 農機作業時が7割占める

農水省では、この運動の趣旨に賛同し、参加協力できる機関(生産局長通知送付先を除く)を求めている。同省ホームページの生産局問い合わせ窓口「氏名」、「電話番号」、「メールアドレス」等を記入のうえ、「ご意見・お問い合わせ内容」欄に「農作業安全確認運動協力申し込み」と記述して連絡をくれるよう求めている。

図2 農作業死亡事故の内訳(2010年)



( )内: 死亡事故全体に占める割合  
【 】内: 農業機械作業全体に占める割合

## 取組件数が倍増見込み

### 環境保全型農業支援対策

農水省は11年度から、環境保全効果の高い営農活動に取り組み農業者に対し、直接支援(交付金交付)を行っている。このほど、12年度環境保

は、今年1月末時点で取組状況(見込み)が公表されたが、取組の件数は1万3577件で、前年度を6955件(105%増)上回った。取組面積も4万5259畝と、前年度を2万8249畝(166%増)上回る見込み。

取組面積を支援対象取組別にみると、すべての取組で増加が見込まれている。なお、今年度からは、新たに地域を限定して設定する「地域特任取組」が追加された。

作物区分別で取組面積を見ても、各作物とも増加が見込まれている。支援の内容は、支援対象取組の実施にともなう追加的なコストを、国と地方公共団体が1対1の負担割合で支援する。具体的には国・地方公共

和食から洋食まで、幅広い料理に使われる「冬にんじん」の価格が高めに推移している。農畜産業振興機構によると、主産地千葉県産の入荷量が11月下旬から少なめとなっていることが要因の一つ。入荷量も落ち着くか、後続産地もある。徳島県産の生育が、気温の上昇とともに回復してきており、3月下旬には同県産の出荷が増加したと予想される。価格に備え、そのころにはにんじん価格も落ち着く。

支援対象取組別の取組面積

	12年度		11年度		増減 (ha)
	取組面積 (ha)	シェア%	取組面積 (ha)	シェア%	
カバークロープ等	12,719	28	2,911	17	9,808
冬期湛水管理	8,388	19	2,840	17	5,547
有機農業	15,182	34	11,258	66	3,924
地域特認取組	8,969	20	-	-	8,969
計	45,259	100	17,009	100	28,249

注)「カバークロープ等」とは、カバークロープ、リビングマルチ及び草生栽培を含む



# 寒玉キャベツを4~5月どり

## 播種時期の操作と品種選定で

近年、食の簡便化・外部化の進展にともない、加工・業務用需要が野菜消費全体の約半分を占め、しかも安全・安心度の高い国産野菜が求められている。

野菜ビジネス協議会(事務局=日本施設園芸協会)は、「加工・業務用キャベツ・レタス栽培技術マニュアル」をこのほどとりまとめた。加工・業務用キャベツには、葉質が硬く、加工後の歩留りが高い寒玉系品種が適しているが、4~5月の出荷量が激減する。この時期に安定して出荷できるよう、4~5月どり寒玉系キャベツ栽培技術を以下に紹介する。

### 温暖地での栽培

冬季の温暖な気候を活用して露地栽培する方法で、トンネルやべたかけ資材を利用しないため、低コストで生産ができる。栽培が可能な地域は、南九州や関東以西の沿岸部である。

【夏まき4月どり】夏に播種して3月に収穫期を迎えたキャベツを、4月まで圃場におく作型。

栽培期間が長いことから2L、3L級以上の大玉になるため、多収生産ができる。播種や定植時期が遅れると抽苔(とう立ち)の危険が増すため、適期作業が重要となる。

品種は、圃場に置いておける在圃性が高く、晩抽性(とう立ちの遅いもの)で裂球や腐敗しにくい「夢ごろも」、「冬のぼり」、「冬景色」などがよい。育苗は作業能率のよい128穴セルトレイを用い、定植は2.5~3葉期に行う。10a当たりの目標収量は8~9t。

【秋まき5月どり】秋に晩抽性の中早生品種を播種して、春に球を肥大さ

せる作型。球肥大が急に進むため、裂球しやすく収穫適期が短い。L、2L級中心の大きさとなるため、密植をして収量を高めるとよい。播種期が早いと抽苔の危険が高まる。肥料が不足するとチャボ玉(発育不良による小玉)になりやすいので、肥切れを起こさないようにすることが重要。

品種は、「かんろく」、「さつき女王」、「来喜」などの中早生が適する。低温や強風などの災害を受けにくく、大苗を育成できる地床苗を用いる。定植は4~5葉期に行う。10a当たりの目標収量は7~8t。

【冬まき5月どり】11~12月に播種。秋まきの場合、抽苔の危険がある品種を年明けにトンネルやハウス内で育苗し、5~6月に収穫する作型。

品種は、「かんろく」、「さつき女王」、「おきな」、「初恋」などの晩抽性で春に球肥大が早い中早生が適する。低温や強風などの災害を受けにくく、大苗を育成できる地床苗を用いる。10a当たりの目標収量は6~7t。収穫が5月下旬以降なので、コナガやハスモンヨトウなどの虫害を受けやすくなるため防除が必要となる。

### 中間地での栽培

温暖地に比べ冬季の気温が低い中間地では、4月中旬~5月中旬どりをトンネル栽培とし、秋まき5月どり栽培では、定植後に不織布をべたかけするなどして安定生産をはかる。栽培が可能な地域は、関東以西である。

【夏まき4月どり】温暖地での栽培と同じ作型。播種期は8月中旬を目安とする。

### 冬季温暖地における4~5月どり寒玉系キャベツの作型と品種

作 型	適品種	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
夏まき 4月どり栽培	夢ごろも 冬のぼり 冬景色 など	●	●	▼	▼	—	—	—	—	■	■	■
秋まき 5月どり栽培	かんろく さつき女王 来喜 など	—	—	●	●	▼	▼	▼	—	—	■	■
冬まき 5月どり栽培	かんろく さつき女王 おきな 初恋 など	—	—	—	—	●	●	○	▼	▼	—	■

凡例)●:播種、○:トンネルまたはハウス育苗、▼:定植、■:収穫

### 中間地における4~5月どり寒玉系キャベツの作型と品種

作 型	適品種	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
夏まき 4月どり栽培	冬のぼり 夢ごろも など	●	▼	—	—	—	—	—	—	■	■
トンネル 栽培	YR春空	—	—	—	○	○	○	○	○	▼	■
	かんろく	—	—	—	○	○	○	○	○	▼	■
	YR天空 など	—	—	—	○	○	○	○	○	▼	■
秋まき 5月どり栽培	さつき王 かんろく さつき女王 など	—	—	●	●	▼	▼	—	—	—	■

凡例)●:播種、○:ハウス育苗、▼:定植、……:べたかけ、○:トンネル被覆、V:トンネル除去、■:収穫

【トンネルによる4~5月どり】トンネル被覆を行うことで抽苔を防ぐことが容易になるため、広い地域で4~5月どりが可能となる。

極晩抽性と春に急速に球肥大が進む早生性をもつ品種が適する。具体的には、「YR春空」、「YR天空」、「かんろく」など。育苗は気温が低いので、128穴セルトレイを用いてハウス内で行う。育苗日数45~50日で、2.5~3葉期の苗を定植する。定植後、苗が活着するまでトンネルを密閉し、活着したら風下側の片裾をわずかに開ける。となりの株と葉が接するようになったら両裾を開けて換気する。球肥大にあわせて徐々に裾を上げ、4月上旬を目安に被覆資材を除去する。10a当たりの目標収量は5t。

トンネル栽培レタスやダイコンなど

の後作に導入すると、資材を再利用することができ、コストの削減やトンネル設置の作業が省け、低コスト化につながる。

【秋まき5月どり】冬季に花芽分化しない範囲で大きな株にして越冬させ、春に肥大させて5月に収穫する作型。

品種は、晩抽性と早生性を兼ね備えた「かんろく」、「さつき王」、「さつき女王」などが適する。冬季に定植するため、育苗は低温や強風などの災害を受けにくく、大苗を育成できる地床苗を用いる。4~5葉期の地床苗を11月までに定植する。10a当たりの目標収量は6~7t。

霜害や鳥獣害を防ぐため、12~3月まで不織布をべたかけすると安定生産につながる。

なお同マニュアルは、寒玉系キャベツ栽培技術のほか、省力化を進めるキャベツ収穫機や大玉レタスの冬どり栽培技術も掲載されており、4月には日本施設園芸協会のホームページで閲覧できる。

## 前作トンネルを再利用 温暖化 球肥大による裂球注意

生の圃場では、新たな発生を防ぐことが期待される。

「キタムサシ」の肉色は色白で煮くずれが少なく、調理後の黒変も少ない。外皮はなめらかで、外観がすぐれる。目が浅く、皮がむきやすいので、家庭での調理のときに取り扱いが容易で手間がかからない。加工業者にとっては、機械剥皮後に目などに残った部分を取り除く作業が減少するので、コスト削減がはかれる。

同センターによると、北海道以外のばれいしょ産地でも栽培が可能で、種苗は15年から種苗会社などを通じて販売されるという。

### 新品種紹介

## 青果用ばれいしょ「キタムサシ」

### 疫病とセンチュウに強い抵抗性

ばれいしょ品種で主力の「男爵いも」は、ジャガイモ疫病に弱く農薬の散布を必要とするほか、土壌消毒でも防除が困難なジャガイモシストセンチュウの発生が問題となっている。

農研機構・北海道農業研究センターは、これらの病害虫に強い青果用ばれいしょ新品種「キタムサシ」を育成した。

ジャガイモ疫病に強い長系101号とジャガイモシストセンチュウに強い北海82号を交配したもので、それぞれの病害虫に強い抵抗性をもつ。殺菌剤を散布しない無防除栽培でも、「男爵いも」や既存の疫病抵抗性品種「マチルダ」よりも多収となる。センチュウが発生している圃場に栽培することで、被害を低減させることができる。未発

### 12年荒茶生産量5%増

農水省がこのほど公表した「12年産主産地の茶生産量」によると、荒茶生産量は前年度に比べ5%増加した。

生葉収穫量は40万1300tで、前年産に比べ1万9100t(5%)増加した。天候にめぐまれ生育がおおむね良好だったことなどにより、収量が増加したとみられる。荒茶生産量は8万5900tで、前年産に比べ3800t(5%)増加となった。

茶の摘採実面積(収穫面積)は3万8500haで、前年産並みだった。

# 牛白血病の発生拡大懸念

## 有効な治療法なく早期発見・淘汰を

牛白血病の発生は、年々増加する傾向にある(図参照)。98年に100頭だったのが、12年11月末には1922頭と19倍にもなっており、感染の拡大が危惧される。

牛白血病ウィルス(BLV)は、血液や乳汁で感染する。具体的には、①アブなどの吸血昆虫が感染牛を吸血したあとに、非感染牛を吸血したとき、②血液がついた除角器などを使用し、非感染牛を処置したとき、③感染牛の

乳を非感染牛の子牛に給与したとき、に感染する。感染牛は必ずリンパ節の腫大などを発症するわけではないが、一度感染するとBLVをもち続けるため感染源となる。そのため、気づかぬうちに農場が汚染されてしまう。

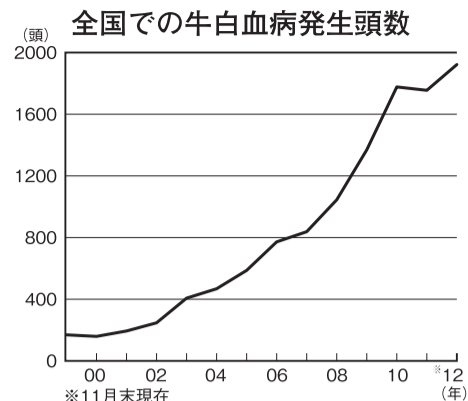
牛白血病はワクチンや有効な治療法がなく、感染を拡大させない対策が重要となる。山形県最上家畜保健衛生所がまとめた牛白血病対策を紹介する。無症状感染牛は他の牛への感染源と

なるため、定期的(年2回)に農場全頭の検査を行う。また導入する牛や子牛(生後6ヵ月齢以上)も検査を行う。感染牛は、隔離するとともに早期に淘汰することが重要。

アブなどの吸血昆虫も感染源になる。牛舎間に網戸を一枚設置するだけでもかなりの予防効果が期待でき、殺虫剤や昆虫成長抑制剤(IGR剤)の散布、ハエ取りシートや防虫ネットを設置するとより効果がある。

血液がついた除角器や耳標装着器、削蹄器具は、1回ごとに洗浄・消毒し、直腸検査で使う手袋や注射針の使い回しはしないことが感染防止に重要。

感染牛の乳も感染源になるので、子



牛に与えないようにする。自然哺育している和子牛は、初乳の移行抗体がなくなる前(生後1~2ヵ月)に母牛から分離し、代用乳などを給与する。

やむを得ず感染牛の初乳を使うときは、56℃30分加熱したもの、または一旦冷凍した初乳を与える。

### 千葉県畜産総合研究センター

## 飼料用米・エコフィード 給与で豚肉質改善

近年、輸入穀物の高騰で畜産経営は圧迫されており、海外の穀物相場に影響を受けない自給飼料の利用が求められている。

千葉県畜産総合研究センターは、飼料用米(破碎玄米)とエコフィード(食品残さ飼料)の配合割合の違いが、肥育豚の肉質などにおよぼす影響を調べた。

同センターは、①飼料用米50%とトウモロコシ27.7%、大豆粕ミール20.2%などを給与する米区、②飼料用米50%とエコフィード20%、トウモロコシ1.4%、大豆粕ミール13.6%などを給与する米エコ区、③市販飼料100%を給与する対照区の3区で、さらに給与開始時の体重で60kgと70kgの群に分けた合計6試験区(60米区、60米エコ区、60対照区、70米区、70米エコ区、70対照

区)を設け、体重が110kgになるまで給与した。

### 後期飼料切り替え 体重60kgが有効

その結果、格付は、60米区がもっともよく、ついで70米区となった。米エコ区は、どちらもそれぞれの対照区と比べ差はなかった。有意な差がみられたのは生肉の保水力。保水力は、一般的に体重70kg開始群に比べ60kg開始群で高く、ドリップロス(肉汁の損失)が減り、締まりのよい肉となった。生肉4日目のドリップロスをみると、60米エコ区がもっとも少なく、ついで60米区と60対照区、70米区、70米エコ区、70対照区の順。保水力以外の肉質は、6区の間には有意な差はなかった。

後期飼料の切り替えは目安とされている体重70kgよりも、60kgで切り替えることにより、締まりのよい肉質になることがわかった。

同センターは、後期用飼料として飼

料用米は十分に活用でき、さらにエコフィードを加えることで輸入トウモロコシや大豆粕ミールの配合割合をより減少させることができ、飼料自給率の向上につながるとしている。

## 省エネ電球でコスト低減

### LEDなら589日で費用回収

採卵鶏の飼養管理では、日長時間(点灯している時間)が産卵に影響するため白熱電球による光線管理が行われている。

千葉県畜産総合研究センターは、開放鶏舎で省エネルギー電球による光線管理を行い、産卵成績などに影響することなく、電力コストを低減できることを実証した。

同センターは採卵鶏「ジュリア」390羽を用いて、光の当たる範囲が広いCCFL(冷陰極管8W)電球を使用するCCFL区、LED(発光ダイオード2.4W)電球を使用するLED区、白熱電球(36W)を使用する対照区の3

区に分け、141~448日齢まで産卵率や卵重などを比較した。

全期間の産卵率はCCFL区93.7%、LED区93.6%、対照区93.2%で、各区とも有意な差がなかった。卵重も各区に有意な差はなかった。

電球1個当たりの購入費は、CCFLが2362.6円、LEDが1690.4円、白熱電球が157.5円であった。期間中の電気料金はLED区が最も安く498.3円、CCFL区1552.7円、対照区6062.1円となった。電気料金は、白熱電球と比べCCFLで74%、LEDで92%の削減ができた。

省エネルギー電球の購入単価が高いものの、計算上ではCCFL区で890日齢以上、LED区で589日齢以上飼養すれば、白熱電球を用いたときよりコストが低減できる。

同センターは「ウィンドレス鶏舎では、開放鶏舎よりも早くコストの低減の効果が表れる」としている。

なお、省エネルギー電球を用いるときは、調光器によってはうまく調光できないときがあるので、事前に電球と調光器の相性などを確かめておくことが重要である。

## 日照不足でソルゴー大幅減

### 12年産飼料作物の収穫量

農水省は3月12日、「12年産飼料作物の収穫量」を公表した。牧草は、放射性物質調査の結果で給与自粛措置が行われた地域もあったことから、全国の合計値ではなく主産地の合計値。それによると、牧草とソルゴーで収穫量が前年産を下回り、青刈りトウモロコシで上回ったことがわかった。

牧草作付面積は70万9000haで、前

年産並みとなった。10a当たりの収量は3420kgで、前年産に比べ3%減少した。これは、北海道で融雪の遅れや春先の低温で生育が抑えられたことに加え、岩手で飼料中の放射性セシウムの暫定許容値による給与自粛措置が拡大されたことなどのため。収穫量は2424万3000tで、前年産に比べ95万1000t(4%)減少した。

一方、青刈りトウモロコシの作付面積は、前年並みの9万2000haとなった。10a当たりの収量は5250kgで、前年産に比べ3%増えた。収量は482万6000tで、前年産に比べ11万3000t(2%)増えた。青刈りトウモロコシ収穫量の約5割を占める北海道で、天候に恵まれ生育が良好だったことによる。

ソルゴーの作付面積は1万7000haで、前年産に比べ600ha(3%)減少した。10a当たりの収量は5240kgで、前年産に比べ2%減少した。これは九州地域において日照不足などの影響で生育が抑えられたことによる。収量は89万7000tで、前年産に比べ4万8500t(5%)の大幅減となった。



福井県畜産試験場

# 飼料費 1割を削減

## 濃厚飼料給与量4割強を玄米で代替

濃厚飼料の大部分を輸入穀物に依存している肉用牛肥育経営の安定をはかるには、飼料用米などの自給飼料を利用することが求められる。

福井県畜産試験場は、肥育中後期に濃厚飼料の6割を破碎し消化吸収をよくした玄米に代替することで、飼料費を削減する肥育技術を開発した。

同試験場は、黒毛和種去勢牛10頭を用いて、馴致期間を6ヵ月とし16~26ヵ月齢まで、1日当たり10kg給与する濃厚飼料の6割を玄米に代替する試験区と、濃厚飼料を10kg給与する対照区の発育や枝肉成績などを比較した。

その結果、両区とも体高、体長、胸囲に差がなく、体重700kgを超え、同様の発育となった。この期間のDG(日増体量)は、試験区0.86kg、対照区0.90kgだった。血中のビタミンA濃度は、試験区が20ヵ月齢以降で有意に低く推移した(図1)。血中の総コレス

テロールや尿素態窒素、無機リンの値も対照区に比べ低めで推移した。

枝肉成績では、両区の枝肉重量やBMS(脂肪交雑基準)No、ロース芯面積、バラの厚さなどに差がなかった。BCS(肉色基準)Noは、対象区4.0に対し試験区3.6と、試験区で明るい傾向にあった。

肉のおいしさに関連があるとされるオレイン酸割合は、両区に有意な差がなかったものの、試験区で高い傾向がみられた。

肥育期間中の1頭当たり飼料費は、対照区22万3918円に対し、試験区19万5688円となった(表1)。馴致を含めた肥育期間の濃厚飼料給与量が4割強

表1 肥育期間中の1頭当たりの飼料費

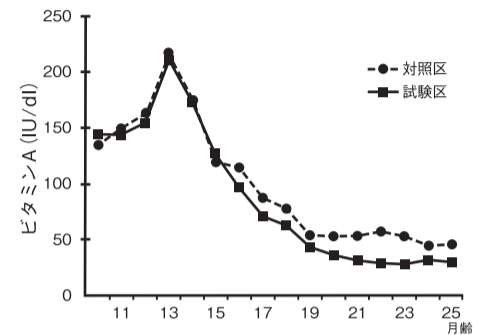
給与飼料	単価(円)	対照区		試験区	
		摂取量(kg)	金額(円)	摂取量(kg)	金額(円)
前期飼料	53	787.6	41,743	801.0	42,453
中後期飼料	47	3205.1	150,640	1630.1	76,615
破碎玄米	30	0	0	1951.1	58,533
コーンフレーク	44	168.5	7,414	0	0
皮付圧ぺん大麦	42	221.3	9,295	75.2	3,158
アルファアルファベレット	74	8.5	629	8.4	622
チモシー	57	65.7	3,745	66.0	3,762
わら	30	348.4	10,452	351.5	10,545
合計			223,918		195,688

も破碎玄米に代替でき、削減額で2万8230円、削減率で12.6%のコスト削減につながった。

今後、穀物需給の逼迫や円安などで、濃厚飼料の値上げが考えられる。畜産経営を強化するためにも、飼料用米が確保できる地域にある農家では、破碎玄米を給与する価値はありそうだ。

同試験場は「破碎玄米を給与する際には、肥育前期から馴致し徐々に増量することが重要」としている。

図1 血中ビタミンA濃度の推移



なお、濃厚飼料を破碎玄米で6割代替すると、タンパク質やミネラルなどの含量が低下するとともに、血中ビタミンA濃度も低下するので、ビタミンA欠乏症に注意しながら必要に応じて補給するなど飼養管理に留意のこと。

# 肥育前期から玄米給与開始

## 20ヵ月齢以降VA欠乏症に注意

長崎県北部農業共済組合

# 牛疥癬の駆除で生産性向上

## 経皮吸収性駆虫薬が有効

牛にヒゼンダニ(以下牛疥癬)が寄生すると、強いかゆみが生じストレスとなる。畜産関係者は病気に観ず、対策が行われていない状況にある。

長崎県北部農業共済組合は、牛疥癬に感染した肥育牛の枝肉成績などを調べた感染調査と、駆虫薬を投与し枝肉成績などを調べた駆虫試験を行った。

感染調査では、11年11月~12年1月に市場に出荷された210頭の黒毛和種去勢牛を用いて、尾根部や大腿部に牛疥癬によるものと思われる皮膚病変がある牛(病変牛)と病変のない牛(無病変牛)の2群に分け、DG(日増体量)、BMS(脂肪交雑基準)、格付などを比較した。

駆虫試験では12年5~7月に出荷された99頭を用いて、出荷5~6ヵ月前に経皮吸収性の駆虫薬を投与し、出荷時にその効果と枝肉成績を調べ感染調査の成績と比較した。

感染調査の結果、210頭中36頭(17.1%)に病変牛が存在していた。病変の大きさは、尾根部だけによるものから大腿部におよぶものまで様々だった。DGは病変群0.79kg、無病変群0.82kg、

BMSは病変群4.83、無病変群5.60。格付は病変群3.33、無病変群3.74。枝肉単価は病変群1518円/kg、無病変群1603円/kg。目安所得は病変群2万720円、無病変群7万4349円で、いずれも無病変群が有意に高かった。病変の大きさによる成績の差はなかった(表1)。

駆虫試験の結果、出荷時に病変が認められた牛は99頭中1頭だった。感染調査における病変群と比べたところ、

表1 病変の大きさによる肥育成績の比較

	頭数	DG(kg/日)	BMS	格付	枝肉単価(kg/円)	目安所得(円)
軽度病変	13	0.79	4.69	3.31	1,510	28,091
重度病変	23	0.78	4.91	3.35	1,521	16,553

表2 肥育成績

	群	頭数	DG(kg/日)	BMS	格付	枝肉単価(kg/円)	目安所得(円)
感染調査	無病変群	174	0.82	5.60	3.74	1,603	74,349
	病変群	36	0.79	4.83	3.33	1,518	20,720
駆虫試験	投薬群	99	0.80	5.45	3.74	1,597	67,767

BMSや格付、枝肉単価、目安所得が駆虫薬を投与した群で有意に高かった(表2)。

以上のことから、駆虫薬を投与することで牛疥癬症が治癒や予防でき、枝

肉成績など生産性向上が期待される。日ごろの観察で尾根部などに牛疥癬による皮膚病変がある牛を発見したら、放置せず積極的に駆除することが重要といえそうだ。

# 全品種で補てん金交付

## 新マルキン13年1月分

13年1月分新マルキンの算定結果

区分	肉専用種	交雑種	乳用種
平均粗収益(A)	843,293	523,129	296,724
平均生産費(B)	880,381	632,730	376,221
差額(C)=(A)-(B)	△37,088	△109,601	△79,497
補填金単価(C)×0.8	29,600	87,600	63,500

注:100円未満切り捨て

農畜産業振興機構はこのほど、13年1月分の肉用牛肥育経営安定特別対策(新マルキン)事業の補てん金単価を公表した(表参照)。全品種で補てんが行われる。

1月の1頭当たり補てん金は、肉専用種2万9600円、交雑種8万7600円、乳用種6万3500円となった。

前回に比べ、肉専用種と交雑種は、素畜費が低下したものの、枝肉価格が大幅に低下したことで、それぞれ2万9600円、3万5500円増となった。乳用種は、素畜費が低下したことで4500円減となった。

# 畜産物需給見通し

## 牛枝肉

全品種出荷頭数減で相場は品薄高か

2月は、決算を迎えた量販店で国産牛や和牛の特売セールが行われ、堅調な相場展開となった。

3月は、気温が暖かくなり始めることから、焼き肉需要の増加が見込まれる。全品種で出荷頭数が少ないため、相場は強気の展開となりそうだ。

【乳去勢】2月の大阪市場乳去勢牛税込み平均枝肉単価は、B3の上場は1頭もなく、B2は704円(前年同月比157%)で、前月に比べ55円上げた。

農畜産業振興機構は、3月の全国出荷頭数を3万3200頭(同94%)と見込んでいる。

気温の上昇とともに行楽や花見などの季節となり、焼き肉需要の増加が見込まれる。出荷頭数が減少するため、早い時期からゴールデンウィーク向け手当ても見込まれる。引き合いは活発化しそうだ。

【F<sub>1</sub>去勢】2月の東京市場F<sub>1</sub>去勢牛税込み平均枝肉単価は、B3が1102円(前年同月比114%)、B2は986円(同128%)となった。前月に比べそれぞれ4円、9円下げた。特売需要が少なく、出荷頭数が多かったことが要因と考えられる。

農畜産業振興機構は、3月の全国出

## 焼き肉需要が増加

荷頭数を1万7900頭(同96%)と見込んでいる。

暖かくなり焼き肉需要が増加すると考えられる。乳去勢・和去勢の出荷頭数減が予測されることから、F<sub>1</sub>去勢に代替需要が発生すると思われる。

【和去勢】2月の東京市場和去勢牛税込み平均枝肉単価は、A4が1772円(前年同月比116%)、A3は1634円(同123%)となった。前月に比べそれぞれ42円、61円上げた。

農畜産業振興機構は3月の全国出荷頭数を3万8900

頭(同93%)と見込んでいる。

宮崎で発生した口蹄疫の影響や安愚楽牧場の倒産で品薄感が続いており、相場は底堅く推移すると考えられる。

このようなことから、向こう1ヵ月の相場は、乳去勢で続伸、F<sub>1</sub>去勢、和去勢で堅調となるか。

大阪市場乳去勢の1kg当たり平均税込み単価は、B3が800~850円、B2は700~750円。東京市場の1kg当たり平均税込み単価は、F<sub>1</sub>去勢B3が1150~1200円、B2は1000~1050円、和去勢A4が1800~1850円、A3は1650~1700円での展開が予測される。

### 2月の子牛取引状況

(単位:頭、kg)

ブロック名	品 種	頭 数		重 量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北 海 道	乳 去	48	135	256	277	57,596	95,363	225	345
	F <sub>1</sub> 去	1,399	1,362	303	306	278,951	275,184	920	899
	和 去	1,750	1,705	300	303	477,489	478,915	1,590	1,581
東 北	乳 去	-	6	-	283	-	109,375	-	386
	F <sub>1</sub> 去	-	14	-	279	-	224,400	-	804
	和 去	2,218	2,465	302	300	499,439	474,867	1,656	1,583
関 東	乳 去	34	32	258	259	79,306	78,398	307	303
	F <sub>1</sub> 去	85	217	280	290	258,559	259,483	924	895
	和 去	684	749	291	275	494,074	483,321	1,697	1,758
北 陸	乳 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F <sub>1</sub> 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和 去	-	-	-	-	-	-	-	-
東 海	乳 去	42	40	286	291	108,375	140,883	379	484
	F <sub>1</sub> 去	72	76	289	295	265,591	251,571	919	853
	和 去	332	297	272	264	504,866	541,556	1,853	2,054
近 畿	乳 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F <sub>1</sub> 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和 去	-	510	-	261	-	476,798	-	1,828
中 四 国	乳 去	106	140	256	256	97,174	97,327	380	381
	F <sub>1</sub> 去	273	298	274	280	260,153	248,670	951	888
	和 去	412	875	284	281	433,538	445,975	1,527	1,588
九州・沖縄	乳 去	41	52	287	284	123,618	127,575	431	450
	F <sub>1</sub> 去	355	417	285	286	273,227	270,338	959	947
	和 去	7,449	10,886	280	278	478,125	480,091	1,707	1,726
全 国	乳 去	272	405	265	270	93,585	103,541	353	383
	F <sub>1</sub> 去	2,184	2,384	295	297	274,437	268,542	930	904
	和 去	13,233	17,487	286	283	481,601	478,619	1,684	1,691

注) (独) 農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

## 安心・安全な国産に価値

### 輸入条件緩和の影響みられず

東日本大震災の発生から2年が経過したが、依然として福島県産の牛枝肉価格は全国平均を下回っている。このような中、厚労省はアメリカ産牛肉などの輸入条件の緩和を行った。

アメリカ産牛肉の輸入量増加で、競合が激しくなるとみられるのはオーストラリア産牛肉だが、少なからず肉質に近い乳用種去勢牛も影響があると思われる。

今のところ、枝肉相場に目立った影響はみられていない。大手スーパーも、アメリカ産牛肉の売れ行きを

様子見している状況のようだ。

輸入条件の緩和による今後の動向について南港市場の買参人は、「不需求期で国産牛の荷動きが弱いうえに円安傾向で、輸入量は増加していない。当面枝肉相場への影響は少ないのではないかとみている。国産牛はトレーサビリティがしっかりしており、安心・安全であるという重要な価値がある。

しかしながら、今後の牛肉消費動向や為替の動向によっては、アメリカ産牛肉などの輸入増加につながると懸念される。

乳用種において市場では、背中が尖っていない体形で、丸みがあり肉量のとれる枝肉が必要とされている。

(全開連西日本支所神戸事業所 石川友也)



## 豚枝肉

輸入豚肉減少と焼き肉需要増で相場は上げか

2月の東京食肉市場豚枝肉平均単価は、上物が415円(前年同月比97%)、中物は368円(同96%)となった。前月に比べそれぞれ13円、22円上げた。出荷頭数が多かったものの、円安の影響を受け輸入量が少なくなったことが要因と考えられる。

農水省食肉鶏卵課によると、全国出荷頭数を3月142万4000頭(同100%)、4月139万1000頭(同101%)と予想している。農畜産業振興機構は、3月の

輸入量を5万3700t(同81%)、うち冷蔵2万900t(同94%)、冷凍3万2800t(同75%)と見込んでいる。

暖かくなり鍋物需要が一段落するが、焼き肉需要が出始めてくる。入学や就職など家計の出費が増えるため節約志向が強くなり、低価格な豚肉の需要が見込まれる。

このようなことから、向こう1ヵ月は輸入豚肉との競合が少なくなることから、相場は堅調か。東京食肉市場1kg当たり平均税込み単価は、上物が420~450円、中物は370~400円で推移すると思われる。



両スモール相場とも取引頭数減で続伸か

【乳素牛】2月の素牛価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は、乳去勢が9万3585円(前年同月比105%)、F<sub>1</sub>去勢が27万4437円(同101%)となった。前月に比べ乳去勢で9956円下げ、F<sub>1</sub>去勢で5895円上げた。

両品種とも毎月支払われる新マルキン補てんが交付されること、枝肉相場が強含みと見込まれること、スモール相場が高騰していることから、素牛相場も堅調に推移すると思われる。

【スモール】2月の北海道主要市場1頭当たり税込み平均価格は、乳雄が4万3991円(前年同月比128%)、F<sub>1</sub>雄が13万9964円(同135%)となった。前月に比べそれぞれ7638円、1万4138円上げた。乳雄とF<sub>1</sub>雄それぞれの取引

頭数が減少したことが要因か。

家畜改良センター公表の個体識別情報集計データによると、両品種とも頭数が減少傾向にある。両品種とも品薄感が解消されないことから取り引きが活発になり、相場は続伸すると思われる。

【和子牛】2月の和去勢価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は48万1601円(前年同月比107%)で、前月に比べ2982円上げた。地域により多少の上げ下げはあるものの、依然として高値での展開が続いている。

口蹄疫や東日本大震災の影響で、取引頭数が品薄となっている。今月から来月に導入する和子牛は、肥育牛となって出荷される時期が翌年の最需期にあたるため、購入意欲が強くなり、相場は一段上げか。